

科目名	基礎数学Ⅲ Fundamental Mathematics III			担当教員	大島光博, 佐藤建一 (窓口教員: 高橋宏明)		
学年	2年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	16120016	単位区分	履修単位
学習目標	この教科では ・平面又は空間ベクトルの性質と図形への応用 ・恒等式と方程式及び複素数, さらに剰余定理の利用及び等式・不等式の証明などを学習する。						
進め方	1. 教科書に沿って基本事項と例題を解説した後, 各自練習問題を解くという形式で講義する。 2. 簡単な予習・復習が必要である。適宜、演習問題、提出物、小テストなどを課す。						
学習内容	学習項目 (時間数)			学習到達目標			
	1. 平面上のベクトル(13) (1)ベクトルの成分 (4) (2)ベクトルの内積 (4) (3)ベクトルの応用 (5)			ベクトル演算を, 成分を用いて計算処理できる。ベクトル内積の定義式, 又は成分計算式を用いて, 2つのベクトルのなす角を求めることができる。平行条件や内積を用いて基本的な計量問題を解くことができる。 学習・教育目標との関連: (B-1)			
	[前期中間試験] (2)						
	試験返却(1) 2. 複素数と方程式、式と証明(28) (1)整式の除法と分数式・恒等式 (7) (2)複素数 (4) (3)2次方程式の解判別 (4)			整式の除法, 分数式の計算及び恒等式の処理ができる。複素数の図形的意味を理解し, 四則演算ができる。2次方程式の虚数解を求めることができ, 判別式を利用できる。 学習・教育目標との関連: (B-1)			
	前期末試験						
	試験返却(1) (4)剰余・因数の定理 (6) (5)高次方程式 (3) (6)等式・不等式の証明(4)			剰余の定理を用いた簡単な数式処理ができる。因数定理を用いて, 因数分解ができる。簡単な等式・不等式を証明できる。相加平均・相乗平均を用いて, 不等式を証明できる。 学習・教育目標との関連: (B-1)			
	[後期中間試験] (2)						
	試験返却(1) 3. 空間のベクトル(15) (1)空間座標 (2) (2)空間ベクトルと成分(4) (3)空間ベクトルの内積(3) (4)空間ベクトルの応用(2) (5)空間の直線・平面・球面の方程式 (4)			空間ベクトルの演算を平面ベクトルと同様に行える。空間図形の位置づけ問題を, ベクトル演算を用いて処理できる。空間図形の基本的な計量問題を, 平行条件や内積を用いて処理できる。空間の直線, 平面, 球面の方程式をその基本性質から求めることができる。 学習・教育目標との関連: (B-1)			
後期末試験							
試験返却(1)							
評価方法	・学習項目ごとの全体評価への重みは, 実施時間数の比率にほぼ従う。 ・評価は定期試験 80%、提出物、授業態度などの平常点 20%で行う。						
履修要件	特になし						
関連科目	物理 (力学、速度、1年), 応用物理 (3年), ベクトル解析・線形代数 (4年)						
教材	教科書: 数学B (東京書籍), 数学II (東京書籍) 問題集: アシストセレクト数学B (東京書籍), アシストセレクト数学II (東京書籍) 参考書: ニューアクションベーシック数学 II+B (東京書籍)						
備考							